

米沢市教育振興基本計画検討委員会（第4回）会議録

日時 令和2年7月31日（金）

開会 午後13時30分

閉会 午後14時57分

場所 置賜総合文化センター
教育委員室

1 出席委員

委員長	大木 晃	委員	金子 明夫	委員	菅原 延昭
委員	聖山 宗徳	委員	宇山 栄一	委員	亀岡 淑子
委員	木島 龍朗	委員	小野 弘子	委員	色摩 安紘
委員	中田 秀樹	委員	須藤 輝美		

2 欠席委員 遠藤 正紀

3 出席職員

教育管理部長	渡部 洋己	教育指導部長	今崎 浩規
教育総務課長	小田 浩昭	社会教育課長	梅沢 和男
スポーツ課長	佐藤 幸助	文化課長	佐藤 恵一
学校教育課長	山口 まゆみ	学校教育課長補佐	小山 克成
教育総務課長補佐	米原 裕美	教育総務課総務主査	佐藤 真英
教育総務課主査	伊藤 和香子		

4 協議内容

委員長 それでは協議に入ります。教育振興基本計画の基本施策（案）の学校教育分野について事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 ——資料1により説明——

委員 小中学校の統廃合の進捗状況を教えていただきたい。また、児童生徒が通う学校は地理的に決まるのか。子どもに希望する学校を選択させるという考えはあるか。

学校教育課長 中学校の学区については、1つの小学校は同じ中学校に行くという考えである。二中と三中を統合し、（仮称）南西中、一中と五中を統合し、（仮称）東中、四中と六中を統合し、（仮称）北中というように3校の中学校を想定しており、南西中については令和7年度の開校を目指している。小学校は来年

4月に関小と南原小、関根小と松川小が統合することになっている。まず、複式学級を解消していく方向である。ロードマップを今年度中に作成し、統廃合のスケジュールもそこに示したい。学区外通学は従来通りだが、自由な学校選択は考えていない。

委員 新型コロナウイルスの影響で世の中が大きく変わっている時に、教育振興基本計画の中で全くそれに触れないのはどうか。今後、オンライン授業が必要になり、子ども達全員がタブレットやパソコンを使えるようになった時に先生方の教育が必要だと思う。基本施策の中に教職員の研修の充実と、先生方の仕事量が非常に増えているので、働き方改革の観点から改善案を盛り込んでいただきたい。

委員 今後、ICT教育は不可欠であり、技術の進歩が速いので指導する側に専門的な知識と技術が伴わなければならないと思う。教員に負担がかからないように指導力向上のための支援をしていくことが必要であり、その具体策を市として示すことができるようにしなければいけないと思う。

委員 学校では授業時数の確保と新しい生活様式をもとに教育活動に取り組んでいる。学校では学習用パソコンやタブレットを活用しているが、文科省からGIGAスクール構想として子ども一人に1台のパソコンの配置と校内における高速ネットワークシステムの整備を示されているので、その推進をお願いしたい。

委員 4月から大学ではオンライン授業を行っているが、これまでそういう経験はなく、そういった教育も受けたことがない上、フォローもない状態だ。しかし、要求されるレベルは上がっており、教員のスキルに差もあるので、大学での運用については国からの支援が望まれるところだ。その点、中高一貫校は非常に強みがあると感じている。中高一貫校から進学してきた学生に話を聞くととても充実しているようだ。以前お聞きしたところでは、米沢、置賜地域で中高一貫校という声は上がっていないということだったが現状はどうか。小中学校の統合を想定している中で中高一貫校の設置についてどう考えているのか。

教育指導部長 県教育委員会の方針ではモデル校をつくり、検証しながら将来的には県内を大きく4つに分けて全ての学区への設置を目指している。県教育委員会から東南置賜地区の学校再編が出ているので、置賜地区に中高一貫校を設置する場合は米沢市への設置を要望している。その場合、市立の中学校が3校、県立中学校が1校、合わせて4校となる。中高一貫校は置賜全域から生徒が集まると想定されるので学校ごとに十分機能を果たしながら運営していくことができると考えている。

委員 今年度から小学校の学習指導要領が変わり、教科書検定を受けたものを見ると平均ページ数が10%、英語を含めると14.2%増えており、教える量はICT教育も含め相当の量である。それと同時に物事を深く考える力や社会を俯

瞰的に見る力、哲学的な思考力を育てる必要があると思う。その中で読書活動は子ども達の感性を磨く上でとても重要である。ナセBA、博物館、伝国の杜を利活用しながら本物に触れることは子どもの知的好奇心を刺激して深い学びにつながるものだと思う。

委員 音楽の授業はCDを利用して行っていると聞いている。生のピアノ伴奏で歌うこと、本物の音に触れることが大事だと思う。音感を育てることは一生の宝物になるので、ぜひ音楽専科の先生の配置をお願いしたい。

委員 学校に司書の先生がほしい。司書の存在が子ども達の図書の利用を左右する。身近なところに子どもに興味を持たせる工夫、環境を用意していただきたい。

学校教育課長 今年度から2名の司書が学校を巡回して図書館の整理をしている。来年度以降も継続したいと考えている。

委員長 他にご意見等なければ、社会教育分野について事務局から説明をお願いします。

社会教育課長 ——資料2により説明——

委員 これまで社会教育は遠隔では成立しないと言われていたが、社会教育課で5月から6月にかけてオンラインで「まちづくり人財養成講座」を行ったところ、毎回全国から120名を超える受講があり、今後はリモートも活用しながら様々な事業を展開できることがわかった。リカレント教育は米沢市を元気にする取組だ。鷹山大学やコミセンの事業は大人や高齢者の学び直し場として有効であり、生涯学習によるまちづくりに結びつくものである。その一方で、どう学習の成果を共有するか、生涯学習によるまちづくりをどう進めるかということが課題になると考える。市民に生涯学習の学びの達成感や満足度調査をしてみることも良いと思う。社会教育は楽しいことがないとたくさんの方は参加してくれないので、おいしい、かわいい、オシャレ、カッコいいという今時の要素を持って考えていく必要があると思う。また、いろいろな世代が交流して課題解決のアイデアを出し合うためには20代、30代の若い世代がまちづくりに参画できるシステムが必要だ。

社会教育課長 今年の「まちづくり人財養成講座」は6回の講座全てをZoomアプリを使ったパソコン配信で行った。全国から211名の申し込みがあり、延べ700名を超える受講があった。今後は20代、30代の方にも講座を受講いただき、つながっていく展開を考えていきたいと思っている。リカレント教育は山形大学でも社会人キャリア教育部門、ダイバーシティ教育部門という形で始めている。

委員 小学校では学校での読書はもとより、「家読」を推奨している。ノーメディア、セーブメディアで生まれた時間を読書に充てることも1つの方法だと思う。学校、家庭、地域、PTAが協力し合い米沢市の読書活動を盛り上げていきたい。

委員 幼児期から絵本に親しむことは大事なことだ。当幼稚園では絵本の貸し出しを

行い、お家の人に読んでもらうようにしている。推薦図書を参考にして本の補充を行い、絵本を通して親子のコミュニケーションを図る取組をしている。

委員 保育園でも子どもに絵本に触れてほしいので、毎日読み聞かせや絵本の貸し出しを行っている。幼児期から親子でナセBAを利用すると習慣化され、小学校に入ってからも自然に利用することができると思う。親子での体験活動が大事であるので、その充実に力を入れてもらいたい。

文化課長 こども読書推進計画を策定し「家読」を推奨している。今年度は広く一般の方にも周知するためにリーフレットの配布を考えている。

委員 ICT教育ということが学校教育分野でも社会教育分野でも出ているが、ICT教育とは具体的にどういうことをやるのか教えていただきたい。

教育指導部長 1つの手段として、パソコンを利用して学習を進めることが基本である。例えば、図書館で調べていたことがパソコンで調べることができたり、外で観察してスケッチしていたものが写真を撮って持ち帰り、みんなで情報を共有することができたり、プレゼンテーションのような形で発表することも可能になる。教員側としては課題や資料を提示したり、コロナウイルスの影響等で学校が休業の時に学校と家庭をつないで学習を進めることができると考えている。

委員 昨年、弊社にYCWで中学生が来たので、ICTを使って測量の仕組みを教え実際に駐車場に文字を書いてもらった。先日、ある現場で偶然、その生徒に会い、昨年、教えてもらった測量が楽しかったので、将来は建設関係の仕事に就きたいと思い、工業高校に入学したという話を聞いた。取組がつながり、一保護者でも工夫すれば子どもの心を変えられることがわかった。子ども達に興味を持たせるITC教育を積極的に行っていただきたい。

委員 これから子ども達を健全に育てるためには、学校と地域、保護者が一層協力していくことが必要だ。地域の方と一緒に郷土学習を行ったり、行事と一緒に参画することを積極的に取り入れ、地域もどうしたらそういう子どもを育てられるか考え、変わっていかねばいけないと思う。

委員 YCWで来られた生徒さんは新しい発見をしたのだと思った。今の話はICTよりプロに触れる、本物に触れるということで感銘を受けた。音楽専科のこともだが、いろいろな場面を活用して本物に触れる、プロに触れる機会をたくさんつくっていただきたい。

委員 山上地区では紅花づくりをしている。先日は紅花摘みや紅餅づくりを体験した。地元の20代の姉妹が当初から一所懸命手伝ってくれている。私も地元のお祭りや太鼓の活動に参加することで、世代を超えていろいろな方とふれあいを持つ機会をつくっていくことに協力できればと思っている。

委員 社会教育、生涯学習の場を提供するコミセンの立場として、この教育振興基本計画施策（案）を読み、その責任の重さを感じているところだ。職員、運営委

員会を含めてもっと学んでいかななくてはいけないと思っている。

委員

生涯学習フェスティバルについて、来年以降の開催はないと聞いている。鷹山大学やコミセンで学んだことや練習したことの成果を発表する機会がなくなることは残念だ。モバイルキッズケミラボの活動でいうと生涯学習フェスティバルは高校生と大学生、一般の方との交流、連携を担っている重要な場である。各種団体の学習活動や学習成果を発表できる機会の拡充のところで、具体的にどのように拡充するのか教えていただきたい。

社会教育課長

生涯学習フェスティバルは行政主導の展示発表と趣味の団体の成果発表のイメージがあった。鷹山大学が行政の支援なしで自ら財源を確保しながら楽しんでいく時代になったことや、成果還元を行政が負担して用意する時代ではなくなったというところがある。新しい発表の仕方、機会提供の仕方が各地区で様々あると思う。特にコミセンを中心としたまちづくり、コミュニティづくりのほうに傾注した発表の仕方を考えていきたいと思っている。

委員長

皆様、ありがとうございました。本日いただいたご意見については事務局にて整理していただきたいと思います。次第の協議の（２）のその他、委員の皆様から何かございますでしょうか。事務局からいかがでしょうか。なければ２の協議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

以上